

【件名】

アレルギー免疫療法の治療効果判定法

【背景・研究の目的】

アレルギー免疫療法を施した患者の中に、無効群が存在することが明らかになっている。しかし、現状で、アレルギー免疫療法の治療効果は、患者の自覚症状に基づくアンケートなどで判定しているが、正確且つ客観的に評価する方法がない。

【研究成果の概要】

治療前後における、「CD4+T 細胞中の細胞表面マーカーA陽性を示す細胞の比率」の変化量減少、もしくは、「CD4+T 細胞中の細胞表面マーカーB陰性、細胞表面マーカーC陽性、細胞内マーカーD陽性、細胞内マーカーE陽性を示す細胞の比率」の変化量減少、もしくはその組み合わせを指標にすると、舌下免疫療法における実薬群及びプラセボ群を高い精度（感度、特異度、及び正診率）で判定できることがわかった。

	A陽性	B陰性、C陽性、D陽性、 E陽性	A陽性、B陰性、C陽性、 D陽性、E陽性
感度	97.2	92.1	93.5
特異度	67.5	57.1	81.0
正診率	81.6	74.0	87.3

実薬群において、有効(Responder, R)群と無効(Non-responder, NR)群とを判定できるか調べたところ、「CD4+T 細胞中の細胞表面マーカーA陽性を示す細胞の比率」の変化量減少と「CD4+T 細胞中の細胞表面マーカーB陰性、細胞表面マーカーC陽性、細胞内マーカーD陽性、細胞内マーカーE陽性を示す細胞の比率」の変化量減少とを組み合わせると、単独の変化量減少を用いた場合に比べ、R群及びNR群を精度よく判定できることがわかった。

	A陽性	B陰性、C陽性、D陽性、 E陽性	A陽性、B陰性、C陽性、 D陽性、E陽性
感度	74.2	47.0	82.1
特異度	100	75.0	100
正診率	78.3	50.0	85.3

【特許出願状況】

特願 2018-562418

【優位性】

採血による指標で、アレルギー免疫療法の治療効果を客観的に評価できる。

【応用例】

アレルギー性鼻炎に対する免疫療法の治療効果判定マーカー

【発明者】

伊原史英、岡本美孝、中山俊憲、櫻井大樹

【連絡先】

千葉大学未来医療教育研究機構

Tel: 043-226-2832 e-mail:mirai-shien@chiba-u.jp